

【2】BCPの実効性を高めるための検証・見直しの方針

(1) 策定したBCPの更新の必要性

本BCPの実効性をより高め、現実的な業務継続計画とするため、下記のような点検・更新を行う。

①社員等の研修・訓練を通しての更新

自然災害発生時に適切な対応ができるよう、定期的に研修・訓練を実施する。

研修では、社員等にBCPの基本方針、BCPの発動基準、行動基準等の周知を図り、

訓練では、安否確認登録や、被災想定に基づいた避難訓練、事例に基づいた演習などを実施する。

その研修・訓練を通して明らかになった課題等を明確にし、それを解消するため、法人災害対策本部が中心となって、社内ルールの改訂やBCPの更新を行う。

②事業所単位での最新情報の反映

BCPを現実的な計画とする為、訓練結果を反映させ、また情報収集、関係者との連携強化を図り管理者を中心として、年に1回以上見直しの必要性を検証し、必要がある場合は見直す。

見直しの担当者	見直しの頻度
訪問・居宅・相談 各管理者	年1回以上

③実際に災害が発生したエリアの事業所の経験に基づく更新

本BCPに基づき、自然災害に対応した事業所にヒアリングを実施し、BCP更新に役立てる。

- BCPに記載のないことで、事業所としての判断を要し、困ったこと
- BCPに関わるツール等で、使い勝手が悪かったものとその理由
- 平常時の対応、緊急時の対応として、必要と気づいた点の提言を受け止める。

(2) 更新履歴を記録する

本BCPを更新した場合は、裏表紙に、その更新日・主な更新項目を記録する。

(3) 更新されたBCPの検証

上記(1)で更新したBCPの検証は、次回の研修・訓練を通じて行う。



BCP策定サイクルは ●●●●サイクルに似ている!?

BCPは一度策定したらそれで終わりではありません。

社員等に周知を図り、研修・更新等で見直しをはじめ緊急時に役立つものになります。

リスクマネジメントの分野でよく用いられている

「PDCA サイクル」や介護業界の私たちに馴染みのある

「ケアマネジメントサイクル」と同様で、

継続的改善を図るという考え方に基づいています。

〔BCPの策定・運用サイクル〕



出典： 経済産業省 中小企業庁「中小企業BCP策定運用指針 第2版

—どんな緊急事態に遭っても企業が生き抜くための準備— を参考に弊社で作図

